北見工業大学学報

第254号（2012年11月号）

目　次

入　学　式	平成24年度秋季大学院入学式を挙行	3
研究助成	平成24年度共同研究の受入状況	4
	平成24年度受託研究の受入状況	4
	平成24年度奨学寄附金受入状況	4
人　事	人事異動	5
受　賞	社会環境工学科、富山和也助教が2012年度土木学会土木情報学論文奨励賞を受賞	6
諸　報	簿記研修の実施	7
	財務諸表等の開示	7
	父母懇談会(秋季･札幌､東京)を開催	8
	社会連携推進センター創立20周年記念事業を実施	9
	エコプロダクツ東北2012へ出展	10
	第4回北見工業大学･江原大学(韓国)ジョイントシンポジウムを開催	11
	日本機械学会北海道支部第51回講演会を開催	12
	消防訓練の実施	13
	大学院進学説明会を開催	14
	社会連携推進センター産学官連携推進員･協力員合同会議を開催	15
	国立大学フェスタ2012｢北見工大図書館ガイドツアー｣を開催	16
	第26回北海道技術･ビジネス交流会(ビジネスEXPO)に出展	17
	アグリビジネス創出フェア2012へ出展	18

	氷雪等自然再生エネルギー利用研究会に参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	平成24年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式・・・・・・・・・・・・・・・・	20
日　　誌	10月・11月・・	21

＝入学式＝

平成 24 年度秋季大学院入学式を挙行

（総　務　課）

平成 24 年度秋季大学院入学式が、10 月 1 日（月）午前 10 時から、本学第 2 会議室で行われました。

鮎田耕一学長から、留学生を含む7人の入学が許可された後、「所期の目的を達せられるよう、大学が全面的にサポートするので、安心して学生生活を送って欲しい」旨激励の言葉がありました。

引き続き、総務課長から役職員等の紹介が行われました。

入学者数は下表のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
社会環境工学専攻	2

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	3
医療工学専攻	2

新入生の皆さん

お祝いの言葉を述べる鮎田学長

＝研究助成＝

平成24年度共同研究の受入状況

平成24年11月30日現在　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（研究協力課）

所　属	職　名	研究代表者	研　究　題　目	民 間 機 関 等
電気電子工学科	准教授	吉澤　真吾	IDMA受信機のディジタル回路構成法の課題抽出と解決法に関する研究	株式会社KDDI研究所
応用研究推進センター	特任教授	山岸　喬	北見産ハマナス由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	株式会社ハーバー研究所
社会環境工学科	准教授	中村　大	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	北海道ガス株式会社　技術開発研究所
機械工学科	教授	山田　貴延	消化ガス発電排熱有効利用に関する研究	北見市企業局
バイオ環境化学科	准教授	岡﨑　文保	高品質CNT合成のための合成条件検討・触媒設計	三恵技研工業株式会社　赤羽工場
電気電子工学科	教授	小原　伸哉	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	PVG Solutions 株式会社/株式会社KITABA
社会環境工学科	教授	川村　彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所

平成24年度累計58件

平成24年度受託研究の受入状況

平成24年11月30日現在　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（研究協力課）

所　属	職　名	研究担当者	研　究　題　目	委託機関	所要経費
バイオ環境化学科	教授	堀内　淳一	合成代謝経路導入シアノバクテリアのバイオリアクターによる物質生産	独立行政法人　科学技術振興機構	円 8,450,000

平成24年度累計12件

平成24年度奨学寄附金受入状況

平成24年11月30日現在　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（研究協力課）

所　属	職　名	研　究　者	寄　附　目　的	寄　附　者	寄附金額
機器分析センター	講師	大津　直史	水素透過膜の耐久性向上を目指した研究の実施	JX日鉱日石エネルギー株式会社 水素・FC研究所	円 300,000
社会連携推進センター	教授 特任研究員	有田　敏彦 菅原　宣義	「配電用がいしにおける汚損特性確認試験」研究のため	株式会社工学気象研究所	1,500,000
機械工学科	准教授	渡辺　美知子	機械工学の研究	有限会社ビーインフォー	100,000
電気電子工学科	教授 准教授	田村　淳二 高橋　理音	「小規模系統における出力変動電源の影響低減を目的とした協調制御に関する研究」	北海道電力株式会社	1,000,000
	学長	鮎田　耕一	本学共催「鈴木章先生記念講演会」の開催	日本赤十字北海道看護大学	350,000
電気電子工学科	教授 准教授 助教	柏　達也 田口　健治 今井　卓	工学研究のため	E&Cエンジニアリング株式会社	600,000
社会環境工学科	教授	亀田　貴雄	雪氷学分野の研究奨励	株式会社清月	17,946
社会連携推進センター	センター長	川村　彰	オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究・研究交流及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学 社会連携推進センター推進協議会	1,660,000
バイオ環境化学科	准教授	岡﨑　文保	CNT修飾Si粒子の研究	株式会社T&Tイノベーションズ	1,000,000

平成24年度累計35件

＝人事＝

人　事　異　動

（総　務　課）

○大学発令

発令年月日	現　職　名	氏　名	異　動　内　容
24.10.1	（新規採用）	齊藤　剛彦	工学部助教
〃	（新規採用）	富山　和也	工学部助教
〃	（新規採用）	小西　正朗	工学部助教
〃	（新規採用）	韓　淑琴	工学部助教
24.11.1	（新規採用）	吉川　泰弘	工学部助教

＝受賞＝

社会環境工学科、富山和也助教が 2012 年度土木学会 土木情報学論文奨励賞を受賞

（社会環境工学科）

このたび、社会環境工学科・富山和也助教（受賞時、応用研究推進センター研究員）が、公益社団法人土木学会土木情報学委員会より、2012 年度土木情報学論文奨励賞を受賞されました。

土木情報学委員会は、1976 年の発足以来、数度の名称変更を経て、設立 35 年目にあたる 2012 年に、委員名称に初めて「学」の字を冠し、土木工学分野における情報および情報技術の有効かつ高度な利用に資することを目的に活発な活動を行っております。この節目となる年に、委員会表彰制度が創設され、土木分野における「情報」および「情報通信技術」の活用を進め、ひいては土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質の向上などに資するために、土木情報学の分野に貢献した個人、団体の業績を表彰しています。

記念すべき第一回目において、富山助教の「生体情報を利用した路面乗り心地に基づく舗装の健全度モニタリング（土木学会論文集 F3（土木情報学）Vol. 67(2011) No. 2 に掲載）」が、論文奨励賞に選出されました。論文奨励賞は、独創性と将来性に富み、土木情報学における学術・技術の進歩、発展に寄与したと認められる満 36 歳未満の若手研究者に対し授与されるものです。

この研究は、重要な社会基盤である道路の路面凹凸が、利用者の乗り心地に及ぼす影響を、心拍変動を用いた生体情報により、定量的かつ高精度にモニタリングし評価する方法をまとめたものです。近年、道路整備における量的充足に伴い、路面の維持管理は、利用者の快適性や安全性を確保する上で重要な、質的向上を目的とした対策が求められています。従来、利用者意識に基づく、路面凹凸の評価は、利用者に対し主観的なアンケートを実施し、その結果を基に定量化することを試みてきました。しかし、アンケート評価は、利用者の乗車感覚を直接測定できる反面、自己申告であることによる客観性の低さや、個々の振動感受性差が、評価結果を定量化する上での課題となっていました。本研究では、本学オリジナルの路面評価型ドライビングシミュレータで走行試験を実施し、代表的な生体情報である心拍変動に着目することで、路面凹凸をモニタリングし、乗り心地に基づき評価する方法を提案しています。また、本手法を用いることで、従来では困難であった、路面凹凸に起因する、利用者の潜在的メンタルストレスの把握が可能となり、舗装健全度モニタリングの精度が向上することを明らかにしています。

社会基盤が急速に老朽化し整備予算が縮減される昨今、道路の「どこを、何故なおすのか?」が社会的に重大な関心事となっております。本研究は、こうした社会的要求に応えるとともに、土木情報学における学術的な貢献が評価され、受賞に至りました。

授賞式にて挨拶をする富山助教

＝諸報＝

簿記研修の実施

（財　務　課）

平成 24 年度国立大学法人北見工業大学簿記研修が 9 月 18 日（火）から 11 月 16 日（金）の期間で実施されました。

この研修は、国立大学法人会計基準を理解するうえで最低限必要となる基礎的な簿記の知識を習得させることを目的としたもので、財務課を中心に 13 名が、北見市内の専門学校講師による全 15 回の講義を受講しました。

受講者は、講義に熱心に耳を傾け、日商簿記検定 3 級の合格を目指して奮闘していました。

講義の様子

財務諸表等の開示

（財　務　課）

国立大学法人法に基づき、平成 24 年 9 月 26 日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成 23(第 8 期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む)及び関係書類を、本学ホームページ（http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/23.html)に掲載しましたので、お知らせします。

父母懇談会（秋季・札幌、東京）を開催

（学生支援課）

例年開催している「父母懇談会（秋季）」を、札幌会場は 10 月 13 日（土）北海道大学高等教育推進機構、東京会場は 10 月 27 日（土）学術総合センターを会場として実施しました。

札幌会場には、89 組 113 人の父母が参加し、全体説明会において、田牧純一副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、近藤和雄学生後援会会長から後援会の活動状況が報告されました。

東京会場には、75 組 99 人の父母が参加し、全体説明会において、田牧副学長から札幌会場と同様の説明がありました。また、谷浩二同窓会関東支部長から同窓会の活動状況が報告されました。

札幌、東京いずれの会場とも、個別面談では、修学状況、就職等について父母から質問が出され熱心にやりとりが交わされました。また、全体説明会の後、個別面談までの待ち時間には、田牧副学長が父母からの質疑に応答する時間を設け、大学生活、生活環境、就職及び大学院への進学など多岐にわたり質疑応答が行われました。

全体説明会の様子（札幌）

個別面談の様子（東京）

社会連携推進センター創立 20 周年記念事業を実施

（研究協力課）

社会連携推進センター創立 20 周年記念事業を 10 月 17 日(水)、18 日(木)の両日で挙行しました。

10 月 17 日(水)に北見芸術文化ホールにおいて、ノーベル化学賞受賞者である鈴木章北海道大学名誉教授により、「ノーベル化学賞を受賞して」という題目の記念講演会が行われました。有機化学を目指すきっかけになった本などの話題も織り交ぜ、「資源のない日本は科学と高度な技術を大切にしなければならない」と日本の進む道について語っていただきました。本学学生はもとより、他大学学生や市内高校生など多くの市民で会場は満席となりました。本学学生をはじめ多くの若者が自分の将来に希望を持ち、刺激を受けている様子でした。

また、10 月 18 日(木)に本学講堂において記念式典が開催され、鮎田耕一学長から開会の挨拶が行われ、続いて里見朋香文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長、近藤龍夫北海道経済連合会長から来賓挨拶をいただきました。続いて佐藤文一経済産業省産業技術環境局大学連携推進課長からは基調講演をいただき、川村彰社会連携推進センター長からはセンターの事業報告がありました。

引き続き行われた記念フォーラムでは、「これからの北見工業大学の社会貢献と社会連携推進センターの姿」というテーマで、塚本敏一北見市副市長、永田正記北見商工会議所会頭、受田浩之高知大学副学長、須藤亮株式会社東芝執行役専務、鮎田学長をパネラーとして、増山壽一経済産業省北海道経済産業局長をコメンテータとして迎え、川村センター長がコーディネータとなり、ディスカッションを行いました。

その後、会場を市内のホテル黒部に移して情報交換会が開催されました。髙橋信夫理事の挨拶の後、永田北見商工会議所会頭から乾杯の発声があり懇談に移りました。途中、社会連携推進センターに関係の深い方々からスピーチが行われ、最後に田牧純一理事の閉会の挨拶で終了となりました。

講演を行う鈴木北海道大学名誉教授

記念式典の様子

記念フォーラムで討論を行うパネラー

エコプロダクツ東北 2012 へ出展

（社会連携推進センター）

10 月 19 日（金）～21 日（日）に夢メッセみやぎで開催された『エコプロダクツ東北 2012』フェアへ参加しました。本フェアは、「地域を中心とした環境と経済の独立」に向け、環境ビジネスの促進を目的に毎年開催されています。今年は、「復興（幸）と再生」をテーマに 139 団体・175 ブースが出展し、来場者数は約 2 万 7 千人でした。

今回は、北海道が出展する「寒冷地型スマートハウス街区コンセプト」ブースに 10 企業・2 大学が参加し、その中で北見工業大学も出展しました。本学からは、寒冷地における特徴ある技術を 2 つ紹介しました。一つは北見市の協力のもと、北海道との協働（タイアップ）事業として展開している両面受光型太陽光発電システムの実証実験で、（株）KITABA、PVG solutions（株）、伊藤組土建（株）とともに電気電子工学科・小原伸哉教授が共同で実施している取組です。もう一つは社会環境工学科・高橋修平教授が進めている牧草を断熱材として利用した雪の冷熱利用の実証研究です。

2 日目には、出展者による技術紹介のプレゼンテーションも行われ、本学土木工学科の卒業生である（株）KITABA の酒本宏代表取締役社長より、本学の技術についてご紹介をいただきました。このように、本学卒業生との取組が今後も活発になることを期待します。

エコプロダクツ東北 2012 会場での北見工業大学ブースおよびプレゼンテーション

第４回北見工業大学・江原大学（韓国）ジョイントシンポジウムを開催

（社会連携推進センター）

韓国、江原大学と本学の第４回ジョイントシンポジウムを 10 月 19 日（金）に開催しました。本シンポジウムは、江原大学と本学が平成 18 年に包括協定を締結し､相互の連携を密にすることを目的に、お互いの大学を会場に隔年で開催しています。今年は本学が当番校であり、社会連携推進センター20 周年記念行事の一環として「地域特産品の高付加価値化と産業化」をテーマに開催しました。

記念講演では、高知大学受田浩之副学長より､「地域資源の価値創造」と題し、高知県、高知市、そして高知大学が展開する取組について講演をいただきました。また、東京農業大学、帯広畜産大学、江原大学、本学のそれぞれから、地域資源を活用した研究の取組について計５つの発表が行われました。今回参加いただいた国内の大学は、文部科学省科学振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成事業」の採択校にて構築されている「食農人材養成ユニット会議」のメンバー校でもあります。農・食関連の人材育成や商品開発への取組についての情報共有の場となり、地域が抱える共通の課題に対し、地域の大学が連携の拠点となり、新たな展開に向かって協力関係を構築するきっかけになるシンポジウムとなりました。

高知大学受田浩之副学長による記念講演

江原大学崔勉教授による講演

日本機械学会北海道支部第 51 回講演会を開催

（機械工学科）

日本機械学会北海道支部主催の第 51 回講演会が北見工業大学との共催で、北見市のご協力のもと 10 月 20 日（土）に、本学 1 号館講義室とアトリウムを会場として開催されました。この講演会は道内にある 7 つの機械系の大学、高専で毎年開催され、本学では平成18年以来6年ぶりの開催となります。当日は朝から雲一つない北見晴れの暖かな日となり、遠くからは岐阜県、関東、東北そして、道内各所から多くの参加者をお迎えすることが出来ました。

学術講演会では 157 名の参加登録があり、106 件の講演が行われました。発表者には多くの大学院生や高専の学生が含まれており、緊張したなかにも活発な質疑応答が行われました。午後には、「りくべつ宇宙地球科学館（銀河の森天文台）」の館長である、上出洋介名古屋大学名誉教授を講師とする特別講演会が開催されました。上出名誉教授はオーロラ研究の第一人者で、この日は「宇宙からオーロラを見る」と題して、未公開の国際宇宙ステーションから見たオーロラの貴重なビデオや写真を交え、オーロラの発生からその魅力に至るまで大変興味深いご講演を頂きました。

特別講演講師　上出名古屋大学名誉教授

講演会の様子

消防訓練の実施

（施　設　課）

10 月 23 日（火）に、本学バイオ環境化学科 1 号棟 4 階を仮想火元とした消防訓練を実施しました。

今回は震度 5 強の地震による火災を想定し、避難前に机の下に隠れて身を守る、火の始末がなされているかを確認するなどの訓練も行いました。その後火災報知機が発報し、建物内にいる学生・教員の避難や、初期消火・避難誘導・負傷者搬送などの訓練も、大きな混乱も無く行うことができました。

避難後は北見消防組合消防本部の立ち会いのもと、はしご車による避難訓練・屋内消火栓による放水訓練・消火器の取扱訓練を行いました。はしご車による避難は 4 階の窓から行われ、仮想避難者が窓からはしごの先にあるかごに移る際には、下で見学していた他の訓練参加者が固唾を飲んで見守っていました。

次に北見地区消防組合消防長から、概ね計画通り訓練ができていたと講評をいただき、最後に鮎田耕一学長からの挨拶をもって消防訓練は終了しました。

初期消火の訓練を行う学生

担架に乗せた仮想負傷者の搬送

はしご車による避難が無事完了した様子

鮎田学長による挨拶

大学院進学説明会を開催

（入　試　課）

10 月 26 日（金）、本学の A107 講義室を会場として学部 3 年次学生及び希望者を対象に大学院進学説明会を開催しました。

本学大学院工学研究科博士前期課程は、平成 25 年度入試から募集人員及び選抜方法等を変更し、一般入試に出願する場合、要件を満たす志願者は推薦入試を併願することが可能となりました。

今回の説明会では、入試課職員から、推薦要件やスケジュール、TOEIC テストの受験等について説明し、121 人の参加者が熱心に耳を傾けていました。

また、説明会の最後には、田牧純一副学長からスーパー連携大学院についての説明がありました。

入試課職員による説明

田牧副学長によるスーパー連携大学院の説明

社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(研究協力課)

10月26日(金)本学を会場として、北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を、昨年と同様に北海道オホーツク総合振興局が開催するオホーツク地域経済活性化検討会議と合同で開催しました。本会議は、北海道、特にオホーツク地域の経済発展を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱して、産学官連携に関する協議・情報交換等を行っています。

今回、本学からは、名称を地域共同研究センターから社会連携推進センターに変更したこと、また今年度は創立20周年にあたり記念事業を実施したことを報告しました。その後「地域資源を活かした『ものづくり』の取組の動向」をテーマに、各自治体や金融機関等支援機関から大学が参加・協力できるイベントや行事の紹介や、大学への要望・期待することなど具体的な意見をいただきました。本学にとって、今後の地域貢献活動に向けた多くの貴重な意見を得ることができました。

本学は今後、いただいたアイディアの具体化に向け、管内の各自治体を訪問して意見交換を実施し、地域の課題解決に向けて取り組んで参ります。

会議の様子

国立大学フェスタ 2012「北見工大図書館ガイドツアー」を開催

（情報図書課）

11 月 5 日（月）から 11 月 11 日（日）まで、国立大学協会の主催する国立大学フェスタ 2012 の一環として「北見工大図書館ガイドツアー」を開催しました。このツアーは学外の方でも本学の図書館をご利用いただけることを知ってもらうことを目的としたもので、昨年度から開催しています。期間中は毎日 11 時と 15 時、平日は社会人の方にも参加していただけるよう 18 時にも開催しました。また今回は学生との協働企画として、サークルの総合美術研究会と写真部の合同展示会をコミュニケーションホールで行いました。

ツアーは 1 回 30 分で、職員が実際に図書館の中を案内しながら、設備や蔵書構成、そして本の探し方を紹介していくというものです。本学の図書館には、飲食可能で議論や休憩のできるコミュニケーションホールがあり、閲覧室内も 1 階は私語を禁じておらず、自由に議論することができます。参加された方には、やはり図書館は 1 人で静かに学習する場所だというイメージがあったようで、このようなスペースがあることに驚かれた様子でした。また、ベストセラーや映画の DVD 等も所蔵していること、英語の多読資料（簡単な英語で書かれた絵付きの薄い本）が市民の方にも人気があることを紹介すると、是非使ってみたいという声もあがりました。ツアーの最後には図書館利用証の申請方法を案内しましたが、早速申請して本を借りていく方もいました。

このツアーには 1 週間で 21 人の方が参加されました。「経済の伝書鳩」と「北海道新聞」に紹介記事が掲載され、これらを見て参加する方もいました。

学生との協働企画の展示会も好評で、期間中は学内外を問わず多くの方がコミュニケーションホールに足を止めて熱心に展示を鑑賞していました。

情報図書課では今後も学生や職員だけでなく、市民の方にも開かれた図書館であることをアピールしていきます。

ガイドツアーの様子

総合美術研究会・写真部合同展示会

第 26 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11 月 8 日（木）～9 日（金）に、アクセスサッポロを会場に開催された、ビジネス EXPO に出展しました。本イベントは、およそ 18,000 人の来場者がある道内でも有数の技術マッチングイベントです。本学は、「学術・試験研究機関展示ゾーン」にて、研究や大学の紹介を行いました。特に、冬季スポーツに関する工学的研究、摩周湖の水質調査による地球規模の環境モニタリング、牧草を断熱材として活用した雪の冷熱利用、簡便・正確な糖濃度測定を可能にする糖センサーの開発、スマートウィンドウ用高性能水酸化物薄膜材料の開発の研究に関し、多くの質問をいただきました。

オホーツク地域からは北見市工業技術センター、北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センターが関与するオホーツク地域での技術紹介の展示なども行われました。さらに会場では、十勝、函館、室蘭等の取組が紹介されており、地域全体における連携した展示展開なども今後の取組として必要性を感じました。

このイベントでは、出展者の立場や来場者として本学の卒業生も多く参加していました。本学ブースへ仕事の面での興味や懐かしさで立ち寄るなど、やはり母校へ愛着を持っていただいていることが垣間見えました。また、学生の就職に関する求人の話をしていただいた卒業生もいました。本イベントは、研究紹介や大学の紹介とともに、在学生のためにも価値ある場であると感じ、このようなイベントでの大学広報の重要性を再認識する場でもありました。

多くの来場者が訪れる様子

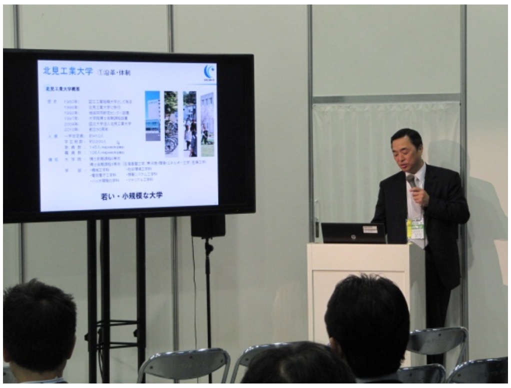
アグリビジネス創出フェア 2012 へ出展

（社会連携推進センター）

11 月 14 日（水）～16 日（金）に、東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア 2012」に出展しました。本学は、平成 19 年度から出展しています。

今回はバイオ環境化学科佐藤利次准教授が取り組む、「シイタケ培地に富化している機能性物質の活用に向けた研究」、新井博文准教授が取り組む、「ハマナスによるアレルギー抑制」、そして、本イベントに参加するきっかけとなった、本学が平成 18 年度から取り組んでいる工学的素養を持つ土木・建設業の技術者を主な対象とし農業関連分野に参入する人材を育成する「工農教育事業」について紹介しました。研究・技術プレゼンテーションでは、それらの研究や取組、展示の見どころなどを紹介し、多くの方々にブースに足を運んでいただきました。来場者からは、「工業大学がなぜ食・農なのですか？」との質問が多くありました。本学の地理的環境や産業構造などから地域連携・社会貢献の視点からは第 1 次産業との関係を意識することに、多くの共感もいただきました。

東京を会場とする本イベントにおいても、本学のブースには多くの北海道出身者や本学卒業生が立ち寄るなど本学の活動に興味を持っていただきました。卒業生への近況報告や就職活動、入試案内を含め、産業界とのマッチングイベントはマッチングの他にも大学広報として価値のある場であると感じました。また本イベントは、「食・農」に関連した地域性を強く出すことができる場ですが、北海道内の大学の中でも、その特徴を活かし出展することができる大学は限られます。本学が出展する価値の高いイベントであり、今後も積極的な参加を考えていきます。



研究・技術プレゼンテーション

出展ブース

氷雪等自然再生エネルギー利用研究会に参加

（社会連携推進センター）

11月17日（土）に紋別市内で一般社団法人オホーツク・テロワール主催の、「氷雪等自然再生エネルギー利用研究会」が開かれ、本学からも関係者が出席しました。

オホーツク・テロワールは、地域にふさわしい産業の振興に向けて、オホーツク地域の特長を活かした新たなサービスや商品を生み出す取組を行っています。今回の第2回研究会は雪氷冷熱を利用した食料の保存や熟成など具体的なアイディアの検討を目的としており、講演とパネルディスカッションにより、関連する最新情報の交換、種々技術の紹介、連携の可能性の議論などが行われました。

地域への貢献を目指す本学の活動の一環として、講師・パネラーの立場で出席した社会環境工学科の高橋修平教授は、「冬の間に雪を数mの高さに積み上げ、ほぐした牧草を数十cm被せるだけで雪を通年維持する技術」の研究結果について講演しました。また社会連携推進センターからは、本学の研究者が進めている雪や氷に関連する研究と、社会人対象の1次産業・食に関連する工学的人材の育成プログラムについて紹介しました。その他各講師から、雪の冷熱を利用する全国の食品関連の取組、実際に雪の山を作りジャガイモ他オホーツク地域の産品を保存した実証実験の結果などが紹介され、活発な議論が行われました。

工学の立場から取り組む食や1次産業に関連する教育・研究などの諸活動、雪氷をはじめとする寒冷地に関連する研究は、いずれも本学が誇る強みの一つです。社会連携推進センターは、今後も、それら強みの発揮による地域・社会への貢献を目指す活動に積極的に取り組んでいきます。

研究会の会場

高橋教授による講演

平成 24 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式

（総　務　課）

平成 24 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が 11 月 22 日（木）午前 11 時から第 1 会議室において挙行されました。

鮎田耕一学長から被表彰者に対し、表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、下表のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者（50 音順）

30 年勤務者

氏　　名	所　属　学　科　等
信　山　直　紀	技術部
山　崎　智　之	社会環境工学科
山　根　美佐雄	技術部

20 年勤務者

氏　　名	所　属　学　科　等
榮　坂　俊　雄	情報システム工学科
佐　藤　敏　則	技術部
徳　田　　　奨	技術部
長谷川　麻　美	学生支援課
平　山　浩　一	電気電子工学科

永年勤務者表彰式被表彰者

＝日誌＝

10　月

1 日　秋季入学式、オホーツク産学官融合センター事務局会議
4 日　中小企業基盤整備機構個別相談会
10 日　教育研究評議会、研究推進機構統括会議
13 日　父母懇談会（札幌）
15 日　役員会、留学生歓迎会
16 日　情報探索講習会（～25日）
17 日　社会連携推進センター創立20周年記念講演会
18 日　社会連携推進センター創立20周年記念式典・フォーラム、中小企業基盤整備機構個別相談会
19 日　教務委員会、ジョイントシンポジウム
20 日　日本機械学会北海道支部講演会
22 日　社会連携推進センター運営会議
23 日　消防訓練
24 日　編入学試験（第2次募集）願書受付（～30日）
25 日　情報システム運営委員会
26 日　学生委員会、社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
27 日　父母懇談会（東京）
29 日　図書館委員会

11　月

1 日　北海道臨床開発機構新規支援シーズ募集説明会、推薦入試・帰国子女特別入試願書受付（～8日）、中小企業基盤整備機構個別相談会
5 日　遺伝子組換え実験等安全管理委員会、図書館ガイドツアー（～11日）、オホーツク産学官融合センター事務局会議
7 日　研究科委員会
13 日　推薦入学者選抜実施委員会
14 日　教育研究評議会、研究推進機構統括会議
15 日　中小企業基盤整備機構個別相談会
19 日　図書館ブックリユース（～26日）
20 日　社会連携推進センター運営会議
21 日　学生委員会、編入学試験（第2次募集）面接試験
22 日　永年勤務者表彰式
26 日　国際交流委員会、推薦入学者選抜実施委員会
28 日　入学試験実施委員会
29 日　組織再構築に係る設置準備会
30 日　推薦入試